



色鮮やかに咲き誇る桜は、衣川に春本番を告げる

Oshu Heritage

奥州遺産

No.31

「ときを越え
受け継がれるもの」

懸田の桜

Ⅱ衣川区小正板Ⅱ

田園風景が広がる衣川区懸田地区。県道沿いのあぜ道に「懸田の桜」は凜と立つ。「川西の桜」「百ヶ袋の桜」とともに「衣川の三本桜」とされている。その昔、衣川流域は何度も干ばつ被害に見舞われた。流域の耕地に水を引き入れようと、江戸時代の初期、山田次左衛門が中心となり北大堰を開削。その際、樹下に堰を通したため、桜の木は、根が切られ、枝が切り落とされたという。そのまま枯死するかと思われたが、根元からのひこばえが大枝に成長。枝振りは昔と変わったものの、今も毎年鮮やかな花を咲かせている。田植えを手作業でしていた当時、この桜が咲くと種まきを始めたという。古くから地域の人たちに「種まき桜」と呼ばれ、親しまれてきたエドヒガンザクラ。春の柔らかな風になびく桜の花弁は、見る者を和やかな気持ちへと導く。

※川西の桜…市指定天然記念物、北館のエドヒガンザクラ

広告